

Q.「中長期の成長に向けた取組み」（P14）のポートフォリオ戦略における海外配信と海外映像への取組み方について教えて欲しい。

A.劇場版『ドラゴンボール Z 復活の「F」』は、国内興収が 37 億円で、海外興収を含めるとトータルで興収 77 億円と約倍になっております。今後の取組みでも、海外興行によるビジネス拡大を意識しており、その取組みが収益として現れてくるのは来期以降になります。『キャプテンハーロック-SPACE PIRATE CAPTAIN HARLOCK-』や『劇場版 マジンガーZ / INFINITY』等の海外興行ビジネスを通して、現地のディストリビューターとの関係性も強化されております。今後も、国内よりも海外で収益拡大を目指す新たなビジネスが増えてくると予想しております。

Q.デジモンシリーズの新プロジェクトが始動するようだが、お話し出来る範囲で構想について教えて欲しい。

A.『デジモンアドベンチャーtri.』は、全 6 章で劇場上映をしました。放送当時の視聴層である 20 代男女のコアターゲットに絞り 15~20 館程度の小規模で展開し、成功を収めることができました。新プロジェクトについては、このターゲットに加えて、もう少し幅広い層に向けた展開を考えております。

Q.今夏配信予定のアプリゲーム「ドラゴンボールレジェンズ」は、今期業績予想にどの程度織り込んでいるのか？

A.個別タイトルごとでどの程度織り込んでいるかはお答えできませんが、ドラゴンボール全体の売上予想で申し上げますと、アプリゲーム「ドラゴンボールレジェンズ」も考慮に入れて、前々期の 2017 年 3 月期よりも今期予想の方が高いです。

Q.12 月に公開される映画『ドラゴンボール超』の興収予想を、前作の劇場版『ドラゴンボール Z 復活の「F」』並みに設定された背景について教えて欲しい。

A.社内で古くからドラゴンボールに関わっている関係者との協議の結果です。必ずしも強気でも弱気でもないと考えています。社内では盛り上がってきているので、この興収予想を超えて欲しいと言う気持ちもあります。

以上